

平成29年10月24日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 今田 悟

2016年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2016年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

「黒板の字は大きく読みやすいですか」「説明の声は大きく聞き取りやすいですか」という教員の基本的スキルに関する質問に対して、85%以上の生徒が「ちょうどよい」と回答しています。

「授業は分かりやすいですか」の質問に約90%の生徒が「分かりやすい」「どちらかという、分かりやすい」と回答し、「授業は、プリント教材や色チョークの板書などで工夫されていますか」の質問に対しても、やはり約90%の生徒が「工夫されている」「どちらかという、工夫されている」と肯定的な回答をしています。教員の授業に対する周到的な準備が授業の分かりやすさに結びついていると言えます。とりわけ、特進系列2年の生徒において、生徒は教員の授業に臨む準備、工夫を高く評価しています。

「授業は、生徒の疑問や質問にきちんと応えていますか」の質問に対しては、約70%の生徒が「疑問や質問にきちんと応えている」と回答しています。授業の質・雰囲気に関するアンケートの4～10の項目の回答の中でも高い数字となっており、教員が生徒に対してしっかり向き合うという真摯な態度とともに生徒の授業に対する関心の高さをうかがわせます。

「授業のルールを守るように先生は注意していますか」「先生は、授業時間を守っていますか」の質問に対して、「ほとんど注意しない」「チャイム前に終わることが多い」の回答はそれぞれ1%となっており、教員が生徒に対して真剣な態度で授業に臨むことを要求しつつ、自身も自分を律する姿勢を生徒に示していることがうかがえます。

「この教科の内容は理解できますか」の質問には、「理解できる」「だいたい理解できる」と80%前後の生徒が回答しています。しかし、「この教科の勉強を日常していますか」の質問に対する「毎日している」「ときどきしている」の回答は同レベルの数字となっておりません。日常の学習習慣を身につけること

によって、教科内容の定着率はさらに高まることが期待できます。本校はクラブに在籍している生徒が多いので、普段のクラブ活動で培った集中力を生かせば、短時間でも効率のよい家庭学習をおこなうことは可能だと思います。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

「授業中にはほめられることがある」の質問に対しては、「よくほめられる」「たまに、ほめられることがある」という肯定的な回答は他の質問に比べて低くとどまっています。日本の若い世代は、他国の同世代と比較して自己肯定感が低いと言われています。授業アンケートでは「授業は工夫されていますか」などの質問に対し、生徒から高い評価を得ているだけに、生徒の自己肯定が高まるような授業運営にも力を入れていければと思います。

学習に対する取り組みでは、「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対し、「きちんと取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」の回答が90%となっており、自分に課せられた課題はきちんとやるものであるという意識は浸透しているようです。一方、「1日に家庭学習をどの位していますか」「学校の図書館や自習室をよく利用している」の回答は学校が期待している数字は満たしていませんでした。「やらされる勉強」から「主体的な学び」へとより高い次元への脱皮を生徒には望みたいところです。そのための自身への動機付けとして、将来の夢や目標を持つことの必要性を感じます。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

まず目をひくのが「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問への回答です。「よくあてはまる」「ややあてはまる」に回答した生徒は95%となっています。本校の生徒が挨拶をきちんとする理由として、運動クラブの生徒が礼儀正しく、生徒の良き模範となっているという点と、教員も生徒に自ら積極的に挨拶を行っているという点が考えられます。生徒が挨拶を明るくハキハキとする校風は、自然と生徒を学校生活に対して前向きにさせるようで、「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」という質問に対しても「よくあてはまる」「ややあてはまる」と89%の生徒が回答しています。

ただ、「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」という質問に対する肯定的な回答と、「この学校の生徒は校則を守っている」という質問に対する肯定的な回答との間には若干開きがありました。明るく前向きに学校生活を送るのは大いに歓迎ですが、さらに意識を高め、はじめはしっかりつけて、メリハリのある生活を送ってもらいたいと思います。

「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」の質問には、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と84%の生徒が回答しています。本校では人権教育推進部を中心に各クラス、各クラブを対象とする年間5回の定期的な「いじめ実態調査」の実施、春・秋には「人権週間」を設け、生徒に人権意識向上の啓発をおこなっています。いじめを受ける生徒の精神的被害は甚大で、生徒のその後の人生に大きな影響を与えます。本校ではこれからも人権教育活動を継続していき、いじめの芽を摘んでいきたいと考えています。

以上、各種アンケートの分析結果を簡単に報告させていただきました。分析結果を総括すると、教師の授業内容、指導態度には多くの生徒が満足しているようです。授業を受ける生徒側の態度についても基本的なルールは守ろうとする姿勢が表れており、そうした姿勢は家庭学習の取り組みにも表れ、宿題や

課題はやるものだという意識を多くの生徒が持っています。また、学校生活についても積極的に前向きに取り組んでくれているようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。その様子は教員として微笑ましく感じる一方で、まだまだ本来持っている能力を発揮していないように感じます。本校生徒には現状に甘んじることなく、自己の本来持っている力を高めていこうとする貪欲さを持ってもらえればと考えています。